

新潟大学学生が柏崎周辺地区を現地見学

柏崎周辺農業水利事業所

10月20日（月）に、新潟大学農学部で農業土木を専攻する学生13名が森井教授と鈴木准教授の引率のもと、柏崎周辺地区の現地見学に訪れました。

午前中は、事業所で石田次長から、農業農村整備事業と柏崎周辺農業水利事業の経緯と内容について説明があった後、鯖石川の上流にある善根頭首工を案内しました。善根頭首工は、上流と下流の水配分が誰からでも分かるように、射流分水工により用水が分けられています。なぜ射流なのかを学生に考えてもらうことで、大学で勉強している水理学、構造力学等が活かされ、地域の農家の思いに応える施設になっていることを知ってもらう機会となりました。

次に、国営事業の関連事業である県営経営体育成基盤整備事業の「善根地区」を見学し、新潟県柏崎地域振興局の坂井課長と佐藤技師から説明いただきました。善根地区では、整備前の区画が10aだったのが整備後は50a～1haの大区画となっており、学生たちはスケールの大きさに感心していました。

午後は、国営事業で建設している市野新田ダムにおいて、建設状況や工程、基礎処理試験、盛立試験の概要について、岡田技官から説明がありました。また、今年の8月26日に貫通した仮排水トンネルでは、トンネル内部で学生たちにコンク



事業概要を集中して聴講



通水時の射流分水工



ほ場整備の現場を初めて見る学生も

リート覆工前の支保工や矢板に触れてもらいながら、説明を行いました。

学生たちからは「基礎処理の効果をどのように確認するのか」、「建設までにこんなに色々な準備が必要だとは知らなかった」、「大学で勉強していることがこのような現場につながっていることがわかった」といった多くの質問や感想を聴くことができ、当事業について理解が深まったことが伺えました。

今回の現場見学では、ダムから頭首工、そして受益地のほ場整備まで、一連の水のつながりを説明することで、学生たちは、各施設の役割や機能だけでなく、農業用水の流れ全体を意識して、多くの質問をしてくれました。当事業所では、これからの農業農村整備事業を担う学生たちに一層興味を持ってもらえるよう、積極的に現地見学を行いたいと考えています。

また、本現地見学は、11月4日発行の柏崎日報に記事として掲載されました。



「(心の目で)堤体が見えますか？」



「ブレンドパイルはミルフィーユのように重ねて切り崩します」(ブレンドヤードにて)



仮排水トンネルの中での貴重な説明



雨の中、お疲れ様でした